

LGBTQ+の 健康レポート

誰にとっても心地よい医療を
実装するために

日高 庸晴

当事者の声を医療と教育現場へつなげる——
26年にわたる国内最大規模のLGBTQ+調査
“ヒダカレポート”

医学書院

1人ひとりを大切にした あたり前のケアと教育を

国内でもセクシュアリティを取り巻く環境が徐々に変化している。しかし実際は、LGBTQ+当事者の方への偏見や戸惑いが存在し、世間の表向きの理解と現実のギャップは大きい。それは医療・教育現場も同様だ。そこで本書では、著者が長年にわたり行ってきた国内最大規模の調査データや当事者の語りをもとに、医療を必要としている当事者が戸惑うことなく受診できるための実装方法を解説した。調査データの一部を巻末資料として収載。

LGBTQ+の 健康レポート

誰にとっても心地よい医療を 実装するために

日高 庸晴

宝塚大学看護学部教授

京都大学大学院医学研究科博士後期課程修了、博士号(社会健康医学)取得。カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部エイズ予防研究センター研究員などを経て現職。文部科学省・厚生労働省・法務省・警察庁や最高裁判所/司法研修所、地方公共団体の研修に講師として従事。2023年には内閣府「性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進連絡会議」における初回の有識者ヒアリングの場で調査結果を報告した。

目次

本書に関連する用語一覧

第1部 当事者が置かれた現状と困難

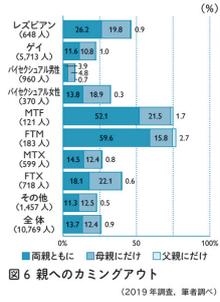
- 第1章 当事者を取り巻く現状
- 第2章 国内外の人権課題
- 第3章 カミングアウトとメンタルヘルス
- 第4章 性暴力・DV被害と援助希求行動の難しさ

第2部 医療と教育現場での実装

- 第5章 LGBTQ+当事者にとっての医療機関と受診控えの現状
- 第6章 専門職として医療従事者に求められること
- 第7章 学齢期におけるいじめ被害や自傷行為が人生に与える影響
- 第8章 LGBTQ+の学生のために教育機関ができること

巻末資料 (2016・2019・2022年調査)

当事者の声を医療と教育現場へつなげる――



ほかの世代 (20代28.6%, 30代29.5%, 40代22.5%, 50歳以上18.7%) に比べると若年層のカミングアウト率が概して高いことが分かる。1999年調査実施時に10代であったゲイ・バイセクシュアル男性の親へのカミングアウト率は9%程度であり、20年を経て3倍以上になっていることが分かった。居住地域別では東京都内在住者のカミングアウト率 29.9% が最も高く、最も低率であったのは九州地方在住者の 19.1% であり地域差は歴然としている (表1)。居住地域別のカミングアウト率は本来であればもっと精査されることが求められ、例えば北海道と一口にいても県庁所在地である札幌市とそれ以外の地域ではカミングアウトの実践状況に違いがあるのではないかと推測される。

LGBTQ+当事者は都市部だけに集中しているのでは決してなく、どれだけ人口規模が小さな町にも離島にも存在するであろう。しかしながら人口規模が小さい町では、日常からの人間関係が狭く限定的であったり関係性が密接であったりすることの影響や、加えて保守的なコミュニティの中で強固な地縁・血縁や旧態依然としたジェンダー規範、それらに連動する価値観等の影響もより強いのではないだろうか。そうした中でのカミングアウトはより困難になることもあるであろうし、自分と同じセクシュアリティの者との

26年にわたる国内最大規模の LGBTQ+調査 “ヒダカレポート” を背景に、実装方法を導き出す

本書で解説している内容は、著者がこれまで実施してきた大規模調査*データをエビデンスとしている

*有効回答数：1999年 1,025人、2005年 5,731人、2016年 15,064人、2019年 10,769人、2022年 10,449人。対象：LGBTQ+

医療機関ができる具体策を提案。たとえば外来では診察券や呼び出しの配慮、そして問診票にある質問の意図の明確化。病棟では個室・大部屋の利用についての気配り、スタッフ間の患者情報のあり方、「家族」の考え方などを解説

安心して受診できるようにするために (表5)

LGBTQ+の患者が安心して受診できるようにするためには、医療機関のウェブサイトなどを通じて、性的指向やジェンダーアイデンティティの多様性に取り組んでいることを明文化しておくこと、「LGBTQ+などセクシュアリティに関する相談や受診の要望がある場合は、可能であれば看護部に事前にお知らせください (確実につながる連絡先を明記)」といった記載を加えることも病院がすぐに取り組めることであろう。受診当日にほかの患者の目がある場などで初めて申し出を受けるよりも、事前に丁寧なやり取りをしておくことで無用なトラブルや行き違いを回避するための予防策にもなるであろう。

トランスジェンダーや性別違和がある人の場合、改名、手術やホルモン療法の有無や身体の状態、違和感の強さ、戸籍など法的性別変更、服装などの外見もさまざまである。従って、外見と実際 (身体や書類上の性別、ジェンダーアイデンティティ) が異なる場合があり、どのような環境に苦痛を感じるのか、どのような対応を希望するかについてもさまざまな実情である。個別に希望があった場合には、あくまでも本人とよく話し合い、可能な範囲で希望に沿った療養環境を整えるとともに日頃からマイノリティ当事者の視点での環境整備をしていく必要がある³⁾ (表6)。安易に門前払いをしたり、「当院での対応は難しいです」といった対応で終わったりするようなことにならないためには、LGBTQ+のいずれかに当てはまることを申告する患者の対応に先駆けて、病院としての方針と対応を十分に議論した上で決定しておくことが必要である。

診察券や呼び出しの配慮

プラスチックあるいは紙の診察券に男性はM、女性はFと性別を刻印/表示している病院もあるであろう。見た目の性別と保険証に記載されている性別が異なる場合、フルネームで呼ばれることに抵抗を感じるあるいは公の場でアウトティングされたと同等に感じてしまう患者もおり、本人確認に当たって配慮が必要になる。宝塚市立病院では2018年2月末から診察券の性別表

LGBTQ+の健康レポート 誰にとっても心地よい医療を実装するために (サンプルページ)

	レスビアン n = 648		ゲイ n = 5,713		バイセクシュアル 男性 n = 960		バイセクシュアル 女性 n = 370	
	n	%	n	%	n	%	n	%
■親へのカミングアウト状況								
10代	カミングアウトしていない							
	29	70.7%	115	68.9%	50	84.7%	23	79.3%
	両親ともにカミングアウトしている							
	6	14.6%	27	16.2%	2	3.4%	2	6.9%
	母親にだけカミングアウトしている							
	6	14.6%	22	13.2%	6	10.2%	4	13.8%
	父親にだけカミングアウトしている							
	—	0.0%	2	1.2%	1	1.7%	—	0.0%
	親はいない							
	—	0.0%	1	0.6%	—	0.0%	—	0.0%
	無回答・無効回答							
	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
20代	カミングアウトしていない							
	172	55.0%	1,204	73.5%	330	88.0%	147	67.4%
	両親ともにカミングアウトしている							
	64	20.4%	181	11.1%	16	4.3%	23	10.6%
	母親にだけカミングアウトしている							
	72	23.0%	191	11.7%	20	5.3%	45	20.6%
	父親にだけカミングアウトしている							
	4	1.3%	19	1.2%	2	0.5%	1	0.5%
	親はいない							
	1	0.3%	40	2.4%	7	1.9%	2	0.9%
	無回答・無効回答							
	—	0.0%	3	0.2%	—	0.0%	—	0.0%
30代	カミングアウトしていない							
	94	46.8%	1,325	72.8%	258	89.3%	50	55.6%
	両親ともにカミングアウトしている							
	69	34.3%	238	13.1%	14	4.8%	22	24.4%
	母親にだけカミングアウトしている							
	33	16.4%	213	11.7%	12	4.2%	16	17.8%
	父親にだけカミングアウトしている							
	2	1.0%	16	0.9%	2	0.7%	—	0.0%
	親はいない							
	3	1.5%	27	1.5%	2	0.7%	2	2.2%
	無回答・無効回答							
	—	0.0%	2	0.1%	1	0.3%	—	0.0%
40代	カミングアウトしていない							
	36	49.3%	1,085	74.0%	149	90.3%	17	70.8%
	両親ともにカミングアウトしている							
	22	30.1%	160	10.9%	3	1.8%	3	12.3%
	母親にだけカミングアウトしている							
	14	19.2%	144	9.8%	5	3.0%	2	8.3%
	父親にだけカミングアウトしている							
	—	0.0%	14	1.0%	2	1.2%	—	0.0%
	親はいない							
	1	1.4%	64	4.4%	6	3.6%	2	8.3%
	無回答・無効回答							
	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%
50歳以上	カミングアウトしていない							
	8	40.0%	451	72.7%	62	86.1%	5	55.6%
	両親ともにカミングアウトしている							
	9	45.0%	56	9.0%	2	2.8%	1	11.1%
	母親にだけカミングアウトしている							
	3	15.0%	47	7.6%	3	4.2%	3	33.3%
	父親にだけカミングアウトしている							
	—	0.0%	7	1.1%	—	0.0%	—	0.0%
	親はいない							
	—	0.0%	59	9.5%	4	5.6%	—	0.0%
	無回答・無効回答							
	—	0.0%	—	0.0%	1	1.4%	—	0.0%
全体	カミングアウトしていない							
	339	52.3%	4,180	72.2%	849	88.4%	242	65.4%
	両親ともにカミングアウトしている							
	170	26.2%	662	11.6%	37	3.9%	51	13.8%
	母親にだけカミングアウトしている							
	128	19.8%	617	10.8%	46	4.8%	70	18.9%
	父親にだけカミングアウトしている							
	6	0.9%	58	1.0%	7	0.7%	1	0.3%
	親はいない							
	5	0.8%	191	3.3%	19	2.0%	6	1.6%
	無回答・無効回答							
	—	0.0%	5	0.1%	2	0.2%	—	0.0%

本文に掲載した図の元となる「LGBTQ+と年齢別」に集計した調査データを掲載。貴重な資料となっている

★掲載の情報は作成中のものです。実際の書籍とは異なる可能性があります。

〈書店名〉



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23
<https://www.igaku-shoin.co.jp>

【販売・PR部】
 TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804
 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp